

第1章 [はじめに]

1、飯田市の環境行政をめぐる動き

飯田市は平成8年度(1996年度)に第4次基本構想基本計画を策定し、めざす都市像を「人も自然も美しく、輝くまち飯田 環境文化都市」として、重点目標を環境と調和する「産業づくり」「都市づくり」「人づくり」として諸施策を展開してきました。

そして、環境面からめざす都市像を実現させるための市民、事業者、行政の環境施策の指針として「21' いいだ環境プラン」(以下、「環境プラン」といいます。)を平成8年度(1996年度)に策定し、行政はもとより市民、事業者それぞれが環境改善活動に取り組んできました。

平成13年度(2001年度)に一般公募による「環境市民会議」を組織し、市民の皆さんと協働して1年間余をかけて環境プランの見直しを行いました。その後5年が経過し、また第5次基本構想基本計画が平成19年(2007年)4月に新たにスタートしたことに合わせて、環境プランの第2次改訂に着手しました。第1次改訂の作業と同様に、公募による「環境プラン見直し市民会議」を組織し、それに合わせて庁内プロジェクト会議を平行して開催し、1年間の見直し作業により平成20年(2008年)3月に第2次の改訂を行いました。

平成8年度(1996年度)の環境プラン策定以後、太陽光発電施設の普及、ごみ処理費用負担制度の導入、容器包装リサイクルの推進、ISO14001の認証取得や飯田市役所の自己適合宣言、地域独自の環境改善システム「南信州いいむす21」の普及展開、そして飯田市新エネルギー省エネルギー地域計画の策定など様々な施策が実現しました。また、豊かな地域資源を活用したグリーンツーリズムによって全国に及ぶ人の交流が生まれています。こうした施策の展開は全国のトップランナーとして注目されています。

飯田市は、平成16年度(2004年度)に環境省「環境と経済の好循環のまちモデル事業」に全国11箇所の一つとして選定され、温室効果ガスの削減と地域経済の循環づくりのためのモデル事業を3年間実施しました。その間、太陽光発電施設による「おひさま市民共同発電事業」が始動し、保育園や小・中学校などにはペレットストーブやペレットボイラーが設置され、そこでは地元民間企業「南信バイオマス協同組合」で製造する木質ペレットを使用しています。その他にも太陽光や地元産材の森林資源を活用した自然エネルギーの域産域消の取組みが始まっています。

平成17年(2005年)9月に発足した「飯田市環境協議会」は、市民、事業者、行政のパートナーシップ組織として、環境省のモデル事業を実施する活動を行ってきましたが、平成19年度(2007年度)からは「飯田地球温暖化対策地域協議会」に再編され、地域全体で温暖化防止活動を推進していく体制が整い、地域の環境改善活動に向けた活動が開始されています。平成21年(2009年)2月には、レジ袋削減の取組みとして有料化を実現し、また平成22年度からはエコドライブの推進事業を行っております。

平成21年(2009年)1月には、国が低炭素な社会を実現するために、温室効果ガスの排出対策などの高い目標を掲げて、先駆的な取組みにチャレンジする

都市として、全国 82 団体の応募の中から飯田市を含む 13 団体が「環境モデル都市」に選定されました。選定時に策定し、内閣府から認められた「環境モデル都市行動計画」に計画に基づいて事業を進めています。

環境 NPO で構成する「環境首都コンテスト全国ネットワーク」が、平成 13 年度から 10 年間開催する日本の環境首都コンテストには、第 1 回から参加しています。10 年目となる平成 22 年度(2010 年度)をもってコンテストは終了しました。その第 10 回において、総合第 1 位の自治体に「日本の環境首都」の称号が与えられましたが、第 2 位となった飯田市は、第 1 位と僅差であり、実質環境首都に匹敵するとの評価から「明日の環境首都」という称号をいただきました。

飯田市は、平成 19 年(2007 年度)3 月 23 日に「環境文化都市宣言」をしていますが、この宣言は新たに平成 19 年(2007 年)4 月から第 5 次基本構想基本計画が施行されるにあたり、第 4 次基本構想基本計画のめざす都市像「人も自然も美しく、輝くまち飯田 環境文化都市」が、飯田市の超長期に目指す未来都市像であることを再認識し市民共通の行動理念として、今後さらに「環境」を根本に据えた取組みを継続し強化していくことを宣言したものです。

平成 19 年(2007 年)4 月から飯田市地域自治組織が発足し、住民主体の自治組織により地域のまちづくりが開始されています。環境分野においては、それまでの環境衛生組合連合会から環境衛生担当委員会連絡会へ組織が改変となり、各地域のまちづくり委員会において活動が開始されています。

平成 21 年度(2009 年度)から千栄地区に建設された最終処分場「グリーンバレー千代」が供用を開始しました。15 年間分の埋立ごみの受け入れが可能という想定がありますが、より積極的なごみの減量による施設の長寿命化が求められています。

平成 22 年(2010 年)4 月には、りんご並木沿いに「りんご並木のエコハウス」がオープンしました。オープン当初からエコハウスコーディネーターが常駐し、毎月環境に関連したイベントの開催や視察の受け入れなどを行っています。平成 22 年度は 1 万人を超える来場者がありました。

平成 23 年(2011 年)1 月には、川路地区に建設された「メガソーラー飯田」が運転を開始しました。中部電力管内初のメガソーラー施設とのことで、市内外から注目されています。駐車場や PR 施設を整備し、誰でも見学できるようになっています。飯田市で自然エネルギーを普及させるひとつのシンボルとなりました。